



CPHI Japan 2024 国際医薬品開発展

次代の製薬産業見据えた 多彩なイベント

2024年4月17～19日 東京ビッグサイト東4・5・6ホールで開催

医薬品の開発から販売・流通までを一貫して取り上げ、製薬業界のメイン・イベントとなっている、CPHI (国際医薬品開発展) Japan 2024 が、今年も4月17～19日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイト(東4・5・6ホール)で開催される。21回目となる今回は、国内および海外20ヵ国・地域から過去最多の約650社が集結、世界約50ヵ国・地域から約2万5000人の参加者を見込んでいる。コロナ禍が明けた昨年からは、CPHIは全世界でリブランディング。それまで同時開催展としていたアウトソーシングなど5分野を、展示ゾーンとして取り込み、より見やすく交流も容易な構成にした。また、CPHI Japan 2024では、新たに低分子からバイオ医薬品分野における創業から製造をカバーすることにも照準を合わせた新たなイベントを設けるなど、次代の製薬を見据え内容の充実にも力を注いでいる。



ジャパンライフサイエンスウィーク

内外から過去最多の650社が参加

昨年のCPHI Japan 2023は、CPHI Japanが開催されて20回の節目だった。全世界で進行中のCPHIのリブランディング、コロナ禍明けとも相まって、参加者も前年の約2倍となる2万4000人を記録した。主催のインフォーマ マーケッツ ジャパンのクリストファー・イブ代表取締役社長は、「リブランディングによりすべての行事・対応が同一会場内で可能になり好評だった。同時開催の“ファーマIT&デジタルヘルス エキスポ”や医療機器設計・製造展“Medtec Japan”への関心も高まり、入場者も増加。全体として、コロナ禍明けからの立ち上がりがあった」という。CPHIのリブランディングは世界的に進められてお



クリストファー・イブ代表取締役社長

り、強みである医薬品原料のみならずこれらのサプライチェーンを含め、医薬品を取り巻くすべてに対応ソリューションを提供できるという高い評価が、昨年のCPHI Japan 2023の立ち上がりの早さ

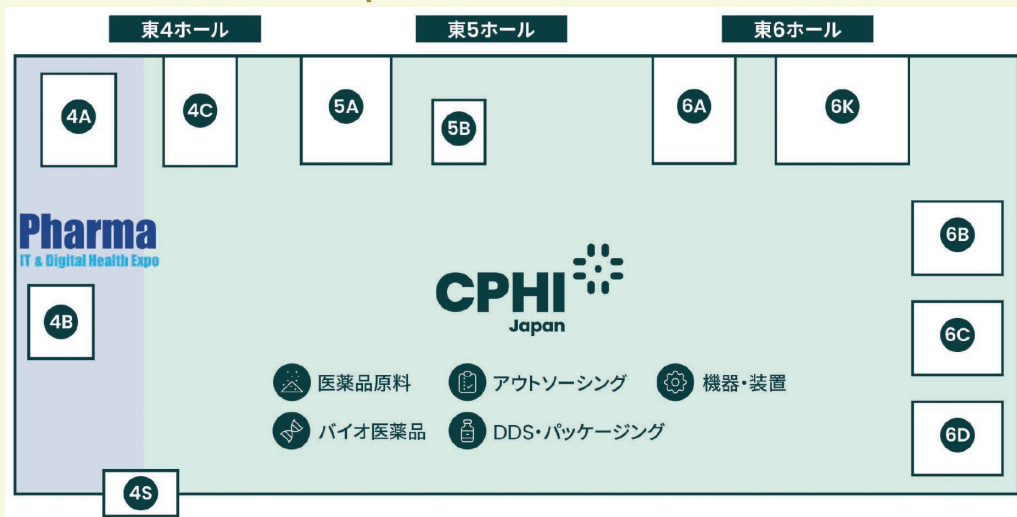


を後押しした背景ともなっている。

今年のCPHI Japan 2024は、国内および世界20ヵ国・地域から過去最多の650社が参加する。日本から250社、400社が海外となっている。日本の医薬品市場への関心の高さを裏付けるとともに、「世界で最も厳しい基準が適用されている医薬品市場の1つである日本での要求をクリアできれば、他の国・地域でも優位に展開できる。技術や信頼性に対する期待の大きさを反映しているのではない

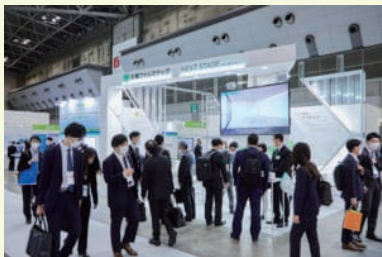
か。またCPHIは、開発や販売、サプライチェーン構築など様々な場面でのパートナー探しの場として期待されている」(イブ社長)という。2020年からの3年間、コロナ禍で思うような交流やビジネスが展開できなかったこともあって、昨年は出合いを求めて参加者が急増した。「コロナ禍では、オンラインを活用したコミュニケーションが主と

CPHI Japan 2024 および同時開催展配置図



基調講演・特別講演・特別ゲスト講演のスケジュールおよび講演者

講演の種類	講演日	講演場所	時間	表題	講演者
基調講演	4月17日	6K-01	9:15~10:15	最新の薬事規制動向について	厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課長 中井清人氏
特別ゲスト講演	4月17日	6K-02	11:00~12:00	アストラゼネカのバイオニアとしての挑戦 (仮題)	アストラゼネカ(株) 代表取締役社長 堀井貴史氏
特別講演	4月17日	6K-03	13:00~14:30	ジェネリック医薬品原薬の品質・安定供給確保の維持継続に向けて	日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 評議員 義若博人氏
特別講演	4月17日	6K-05	15:00~16:00	2023年の世界的な医薬品の開発パイプラインについて	Citeline APAC Insights Editor-in-Chief Ian Haydock 氏
基調講演	4月18日	6K-07	9:30~11:00	ICH 品質ガイドラインの最新動向	日本製薬工業協会品質委員会 ICH 品質グループ ICH 品質グループ長 仲川知則氏 (大塚製薬株式会社) / 同協会品質委員会委員長 沼久美子氏 (塩野義製薬株式会社)
特別講演	4月18日	6K-09	14:00~16:00	原薬の安定供給に関わる現状と課題	日本薬業貿易協会
基調講演	4月19日	6K-12	9:30~10:30	Amplifying Impact and Delivering Lasting Value for Patients	アッヴィ(同) 社長 ジェームス・フェリシアーノ氏
特別ゲスト講演	4月19日	6K-13	11:30~12:30	日本発バイオファーマの飛躍にむけて	そーせいグループ(株) 執行役副社長 CFO 野村広之進氏
特別講演	4月19日	6K-14	13:00~14:00	日本の創薬環境が世界と肩を並べる存在であり続けるために	日本製薬工業協会 専務理事 森和彦氏
特別講演	4月19日	6K-15	14:30~15:15	知の大競争時代を生きる ~LCM/DR 戦略と落とし穴~	岐阜薬科大学 創薬イノベーション共同研究講座 特任教授/ラクオリア創薬(株) シニアアドバイザー 嶋田 薫氏
特別講演	4月19日	6K-16	15:40~16:30	医薬品の安定供給に係る現状と取組	厚生労働省 医政局医薬産業振興・医療情報企画課 ベンチャー等支援戦略室長 山本剛氏



ならざるを得なかったが、ビジネスにはやはり人と人との出会いが再認識されている」(イブ社長)。その出会いの場がCPHIであることは論をまたない。

次代見据えたイベントも充実

次代の製薬を見据えたイベントの中で、今回注目されるのがTIDES AsiaとCPHIの連携企画として4月18日に開催される無料カンファレンス。ペプチド、核酸医薬品の開発などを主なテーマとして開催されているTIDESとタイアップ、次代の医薬品についていくつかの講演会が催される。また、製薬業界に働く女性のネットワーク作りや活躍促進を応援する「CPHI Women」は、カンファレンスとディスカッションの2部構成で開催される。

多彩な講演会にも注目集まる

会期中、多くのイベントが開催される

CPHI Japanで、展示ブースと並び注目されているのがセミナーやカンファレンス。最新の技術情報や業界展望などをそれぞれの分野のキーパーソンが講演。今後の製薬ビジネスにとって有用なヒントやソリューション獲得の契機となっている。3日間の会期中、200を超えるセミナーやカンファレンスが開催される。

基調講演では、17日に厚生労働省・医薬品局の中井義人医薬品審査管理課長による「最新の薬事規制動向について」の講演が、19日にはグローバルにバイオ医薬品の研究を展開する米アッヴィの日本法人・アッヴィ合同会社のジェームス・フェリシアーノ社長の講演などが行われる。特別講演や特別ゲスト講演では、アストラゼネカ株式会社の堀井貴文氏社長、そーせいグループ株式会社の野村広之進執行役副社長 CFOらの講演が17日、19日に開催。医薬品の現状から将来にわたり幅広く展望できる内容となっ



ている。また、最近一般でも取り上げられている医薬品の安定供給については、17日に日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会を中心としてジェネリック医薬品の安定供給についてのパネルディスカッションが、18日には日本薬業貿易協会を中心とした原薬の安定供給をめぐる課題などにつき講演会が開催されるなど、現状の課題についても様々な角度から討論・議論される。その他にも、個別テーマにそった多彩な講師による多様な講演・セミナーが予定されており、課題突破のヒントを得る機会にもなりそう

だ。通算で21回目となる今年のCPHI Japan 2024は、これからの医療・医薬品を考え、支える企業や企業人に出会いの場を提供、課題解決に向けたソリューション獲得の機会を与える展示会へと成長している。

© 2024 The Chemical Society of Japan